

つきあかり・ちほみのりだより

～遅れない穂肥で、多収をめざそう～

巻農業普及指導センター

【つきあかり・ちほみのりの穂肥期から登熟期までの管理のポイント】

◆◆収量の確保に向け、葉色がさめない肥培管理を！◆◆

- 穂肥は出穂 25～23 日前と 14 日前の 2 回を基本とする。
- 1 回目の施用量は窒素成分で 3～4 kg/10 a、2 回目 2～3 kg/10 a とし、合計 6 kg/10 a とする。
- 出穂後 25 日間は飽水管理を徹底する。
- 病害虫の発生に応じて薬剤を散布する。

1 生育状況（6月19日現在）

（内）前年差・比・値

	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	予測出穂期 (月/日)	移植日 (月/日)
つきあかり	9.3 (+0.4)	57 (106)	500 (105)	43.4 (-2.9)	7/25 (7/28)	5/3 (5/5)
ちほみのり	10.0	48	706	42.6	7/20	5/3

○ 6月19日現在のつきあかりの葉数の進みが前年より3日程度早いため、出穂期は前年差も3日程度早いと予測されます。

○ ちほみのりの出穂期は、つきあかりより5日程度早いと考えられます。

2 穂肥のポイント

(1) 施用時期のめやす（1回目の施用が遅れないように）

ア つきあかり（5月3日植）

1回目 6月30日～7月2日頃

2回目 7月11日頃

イ ちほみのり（5月3日植）

1回目 6月25～27日頃

2回目 7月6日頃

(2) 1回目の穂肥は幼穂形成期を確認して施用する。

(3) 施肥量は1回目窒素成分で3～4 kg/10 a、2回目2～3 kg/10 a、合計6 kg/10 a とする。

3 水管理

○ 出穂後25日までは飽水管理を徹底する。

4 病害虫防除

(1) 葉いもち発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。穂いもちは予防防除を行う。

(2) 紋枯病は発生実態を確認し適期に薬剤防除を行う。なお、前年多発生したほ場では早めに予防剤を施用する。

(3) 早生品種のため出穂後のカメムシ類防除を必ず行う。

5 鳥害対策

○ ほ場周囲に民家や電線等がある場合はスズメの被害を受けやすいので、鳥害対策を施す。